

今日の説教のポイント<ルカによる福音書4章16～30節>

①福音！ 礼拝においてこそ聞かれる良き知らせ。

ナザレの会堂でイエス様が説教された時の出来事です。人々が礼拝に集まって一緒に聴くものが福音です。聖書の前半では、会堂に集まった人々は喜んでイエス様の言葉を聞いています。ところが後半はまるで豹変したかのように、28節「会堂の人々は皆憤慨し」ています。24節からイエス様は旧約聖書のなかで書かれている出来事を通して、あることを伝えようとしています。

②福音を聞くのは誰か？ 罪人としての自己認識の問題。

引用されているエリヤ、エリシャという二人の預言者が活動した頃、イスラエルは神様に背を向けており、のちにバビロン捕囚（紀元前587年）によって辛い苦しい時期を過ごします。イザヤ書61章はバビロン捕囚から解放された時に告げられた神様の赦しと回復の宣言でした。しかしその真意に聴かず、イエス・キリストを救い主としてではなく「ヨセフの子」としてのみ捉え、耳に心地よい言葉で満足してしまっていたのです。イエス様は「あなたがたこそ罪人である」と語ります。「わたしが罪人？ とんでもない！」と思われるかもしれません。しかし、神様の前には全ての人が罪人です。聖書が告げる罪と世俗法が裁く罪は、神様の前には本質が異なるのです。聖書が告げる罪は「神ではないものを神としてしまうこと」神様に背を向けてしまうことなのです。

③神様の圧倒的な恵みの大きさがわかるようになるこの幸せ！

ナザレの人たちが憤慨してイエス様を殺そうとする姿に罪のほの暗さを見て慄然とします。これが現実の人間の姿です。この怒りが募りイエス様を十字架につけるのです。しかしその人間を神様は十字架のゆえに「赦す」と言って下さいます。罪人であることを認めた人の耳にこそ聞こえてくる福音の喜ばしい響き！ しかも、福音は一人で聴くのではなく、多くの兄弟姉妹と共に、礼拝のなかで皆が赦された罪人として、感謝しながら聴きます。そこに福音の素晴らしさがあるのです。